

2008年夏合宿 北ア 柳又谷

期間：2008年8月12日～15日

メンバー：田中（L）、釣、野澤（記）

お盆空いている？予定が無ければどこか一緒に行かない？7月初め頃？田中さんから誘われ、うっかり良いですよと答えてしまった。その後で、柳又谷と知り吃驚。しかも1日休みを取らないといけない日程。休暇は無事取れたが、問題は私の力量で行けるか？大丈夫だよ！と田中さんにそそのかされ結局行くことになってしまった。

8 / 1 1

池袋 23:05 発の富山行き高速夜行バスで黒部 IC まで行く。早めに行って池袋で一杯やりたかったが時間的に厳しかったので、缶ビールで今回の遡行の無事を願い出発した。

8 / 1 2 晴

4:48 黒部 IC で降り、ローソンで食料を買い、舌山駅まで歩く。無人駅の舌山駅では、反対のホームで待っていたので慌てて反対側のホームまで走る。出発が遅らせてしまった。終点宇奈月から黒部峡谷鉄道へ乗換え、黒薙駅で下車。7:56。

黒薙温泉への階段を登り杣道を辿る。黒薙温泉への道を右に分け、更に進むと涸れた小沢でフミアトが無くなる。この辺からアブが多くなる。北アであぶ？聞いてないぞ！雨合羽と防虫ネットで防備して進む。暑い。

少し下るようにヤブを漕ぐと第2発電所への軌道が見えた。そのまま軌道の上を歩く。軌道が無くなってからは、雪崩避け用の長い暗いトンネルを利用する。抜けると北又堰堤に着く。北又堰堤で沢の支度をして出発。

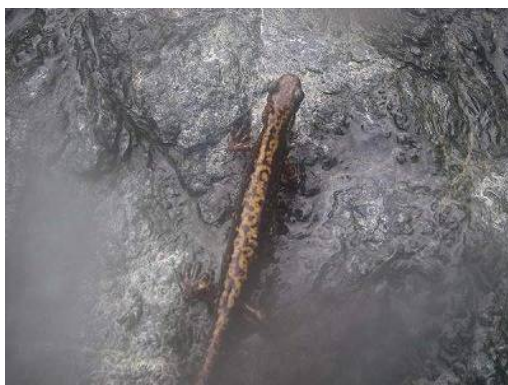
北又堰堤 10:00～10:30



【 立派な軌道 】



【 北又堰堤：左が北又谷 右が柳又谷 】



【 上の廊下手前で見かけた山椒魚 】

少し河原を歩くと下の廊下が現れる。渡渉とヘツリが続く。流れが速い、重い。しかも冷たい。渡渉も足元が掬われる。ヘツリも前に進まない。厳しいザイル渡渉が続く。途中で

田中さんが一回流されラッコ姿勢で救助を待つ。ザイルにヌンチャクを掛け岸边へ引き寄せる。1週間前の渡渉訓練が功を奏し、素早く行え事無きを得る。水の流れが速く、足の下の砂利ごと流されたようだ。下の廊下を抜けると広河原だ。しばらくゴ—口が続きノンビリ歩きたいところだが、アブがますます群がってきて快適ではない。広河原 12:00。カシナギ深層谷 13:00 カシナギ深層谷の滝は、中島さんの記録のような2条の滝ではなくすだれ状になっていた。少し水が多いか？さて、本日のメインの飛竜峡だ。ザイル渡渉や飛込み渡渉で進んでいく。



【 右の大岩から飛込み渡渉で越える 】

最狭部のL字淵は左岸に移れば突破できそうだった。しかし、良い所へ行くには遠くて飛びきれない。少し下へ飛び肩車で岩を登れば行けそうな雰囲気、釣さんが果敢にも飛び移る。少し着地が乱れ流されるが無事辿り着



く。対岸の状況を調べるが良いところが無い。狙った岩も予想以上に厳しい。ここで田中さんから戻れの指示。あきらめて右岸を高巻く。小さく高巻き涸れ沢

を懸垂 20m で本流へ戻る。やさしいガレを登ってもう一度 10m 懸垂で本流へ。さらにもう一度高巻くとタンバラ谷出合いの広い河原に出る。天場適地は幾つかある。流木も豊富だ。予定では、柳河原でBP予定だったが、ここを本日のBPとする。田中さんには、早速今晚のおかずを釣りに行ってもらうが、アタリが少ないとのこと。それでもプライドにかけて一尾釣ってきた。流石だ。岩魚 24cm 1尾(塩焼き)

タンバラ谷出合い 16:00



【 タンバラ谷出合い BP 】

8/13 晴 後 曇 雷雨 出発 7:20
タンバラ谷出合い上の小滝は朝イチからの深い流れのヘツリが冷たく厳しいので左岸から越える。今日は赤尾谷までなのでノンビリだ。柳河原を釣りながら進む。すぐさま 25cm 1尾キープ。他は 20cm 以下の岩魚のみで全て放流した。

柳河原終了点 9:40

オーレン滝手前 11:10 ~ 12:10

昼はソーメンタイム。田中さんがあっという間に大物を釣り上げる。



岩魚 38cm と先の 25cm を刺身でいただく。

何故か釣ったばかりの38cmより、25cmの刺身の方がおいしかった。ソーメンと刺身を腹一杯食べ、中ノ廊下へ進む。

特に悪場は無いが渡渉ポイントは限られ、ヘツリは厳しい。

赤尾谷 15:40 着

対岸に台地があり余程の増水が無い限り耐えられそうだ。その下の快適な小砂利が堆積した河原にテントを張り、上の廊下の偵察に行く。上ノ廊下出合いのS字峡が行く手に立ちふさがる。狭く、水量多く、流れも速い。見るからに恐ろしい。小ナル谷を巻くしかない。16:20頃から雨が降り始め、瞬間に大雨に。沢もあつという間に濁流となる。逃げ場の無い廊下だったら危なかった。50cmほど増水し、一時上の台地に引越しも考えたが18時頃から水が引き始め、ほっと一安心する。

8/14 晴 後 雷雨 出発6:45

昨日より水量は多く少し濁っている。渡渉点は昨日偵察しておいたので助かった。すぐに小ナル谷を登る、地図から想像していたよりいつまでも水がある。

右から入る沢状に入り、詰めると大ナル乗越、10分下ると大ナル谷出合い。

大ナル谷出合い 9:00

少し下ると5mの滝が出て懸垂支点残智があり、更にその下に滝があった。懸垂で降りた後のトラバースルートが読めないで戻って、高巻きにいる。浮石も多く高巻きも厳しい。支稜を1850m付近まで登って、やっと少し安全なトラバースが出来るようになる。涸れた沢に懸垂で降り、更にそれを下り、クラガリ峡上の雪溪に降りる。12:30

恐怖から開放され、安堵から疲れが一気に広がる。雪溪上を歩いて本日のBP予定のハヤ谷へ。しかし、ハヤ谷は雪溪で埋まっておりBPとしては不適。更に進むことにした。レンゲ谷を越えると雪溪が切れる。

【 クラガリ峡の雪溪 】



【クラガリ峡の雪溪終了点 左がレンゲ谷】

冷気が気になり、もう少し先へ進み休むこと



にする。上手い具合に草付に上がれ、草付きの獣道を拾って行くと岩棚が出てきた。ここで、休憩していると、雨が降り始めたので雨宿りすることにした。岩棚 14:20
しかし、雨は激しい降り方に変わり、沢はチョコレート色の水が恐ろしい音を立てている。沢は遡行出来ない。やむを得ず岩棚下でピバーク(3人が丸くなって雨を避けられる) テントとタープを被っても雪溪の冷気が流れ寒い。でも、ここは我慢するしかない。



しかし、全くの偶然だが岩棚の上にも下にもピバークポイントは皆目無

く、我々は大変ラッキーだった。



【 岩棚対岸の増水した谷 】

8 / 15 曇 後 雨 出発 6 : 10
朝から小雨が降り、肌寒い。しかも寝不足だ。
今日の目標を下山として、暖かいお茶を飲んで
出発。
滝が多く、どれが新作滝かわからないまま、
へつれない、渡渉できないところが出てきた。
右岸の垂壁を空身で登って荷揚げをする。



そのまま高巻きを続け、ザレを横切るとノー
ザイルで沢に戻れた。

朝食のために大休止 8 : 00 ~ 9 : 00
中島さんが登った 2001 年とは残雪量が違う
のだろう、なかなか大カールの雪渓にたどり
着かない。歯ごたえのある（全て直登出来る
ので楽しい）小滝を長い間登り続けて漸く大
カール雪渓に到着。 11 : 30

稜線まで 3 箇所の雪渓歩き。

清水岳に続く登山道に 12 : 10

白馬岳頂上小屋 13 : 00 ~ 14 : 05

白馬の大雪渓は、石がカラカラ落ちてきて不
気味。とっとと降りる。

猿倉荘 17:20

タクシーで八方「みみずくの湯」へ。

白馬駅前、よさこい祭りが開催されており、
交通規制があるそうで、みみずくの湯から白
馬駅まで歩く。約 10 分。

柳又谷を遊行出来て感激である。

感想としては、泳ぎは全く無く、ただひたす
ら渡渉とヘツリ。ヘツリは男性ならば何とか
渡れそうな水深。しかし、廊下のような場所
は、雨が降り始めたらあっという間に増水す
るので、とっとと逃げないといけないことが
分かり、大変勉強になった遊行となった。
メンバーに感謝。